ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名　※	外国語学部
科目名　※	国際社会論Ⅰ	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月１
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的　※	現在の多文化的なオーストラリアは、いかにして成立してきたのか。アジアとヨーロッパの間で、オーストラリア社会はどのような社会変容を経験してきたのか。本講義は、オーストラリア社会を対象に、1788年の「発見」を経て「多文化主義的国家」に至るまでの過程を、歴史社会学的な視座から考察する。オーストラリアの歴史は異文化理解と多文化共生の歴史でもある。異文化理解や多文化共生とはどのようなことを意味するのか、さまざまな事例を扱いながら考える。 　本講義の目的と到達目標は以下の通りである： １）アジアとヨーロッパの間で揺れ動くオーストラリア社会の姿を、主に移民史の観点から理解すること。 ２）オーストラリアへのステレオタイプを脱し、アジアとオーストラリアの関係について、異文化理解・多文化共生という観点から考察し、異文化理解・多文化共生についての多様な姿を理解すること。 　考察対象は、i)19世紀後半のオーストラリアの移民政策の形成過程の考察、ii)第二次大戦後のオーストラリアにおける、ヨーロッパとの関係の変容とアジア太平洋地域との関係進展、iii)多文化主義社会の実現に至る、エスニック関係の言説の変容、iv)難民の受け入れにみる多文化主義の実践、である。本講義は動画や写真を随時授業の中で用いながら、体験的に受講者の理解を深めるようにしていく。これにより、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的な理解が可能になる。 　本講義は、単なる世界史の講義などではない。常に参照点を現在におき、世界史等の知識の前提がなくても、興味関心を持って内容を理解できるように授業を進める。なお、オーストラリアで起きる現象には、他地域の社会変化が大きく影響していることが多い。したがって、必要に応じて、他地域と関連させながら解説をする。 　詳細は第1週に説明するので、必ずガイダンスに参加すること。第１週のガイダンスから出席を取り、受講票の提出を求める。参加がない場合は履修を認めないことがある。		
到達目標			
授業内容	第1回☒イダンス 授業の概要の説明、オーストラリアに関する概説的な解説 第2回☒ーストラリアに移民するまでのイギリスの社会経済的な状況 第3回☒ギリス植民地主義の展開とオーストラリアの存在 第4回☒ギリス植民地主義のなかでオーストラリアへ移民する理由の考察 第5回☒芸作品『オリバーツイスト』にみるイギリスの労働者社会とオーストラリアへの移民		

	移民 第6回19世紀後半オーストラリアの中国人とその社会経済活動 第7回19世紀後半オーストラリアのメラネシア人、日本人とその社会経済活動 第8回豪主義の導入と第二次大戦の開戦：「人口増か、破滅か」と戦後復興に向けた計画の策定 第9回豪主義の導入と第二次大戦の開戦：大量移民受け入れ計画の開始と指定労働制の考案過程 第10回文化主義社会の到来：バルト系難民と指定労働制の運用 第11回文化主義社会の到来：ベトナム難民の「分散」と集住、現地社会の世論 第12回ジア出身の人口の増大と国家アイデンティティの変容 第13回文化主義社会の変容とコスモポリタン化する社会：難民の受け入れのあり方の変容(政策分析) 第14回文化主義社会の変容とコスモポリタン化する社会：難民の受け入れのあり方の変容(農村部の事例研究) 第15回とめと総合的な議論、期末試験の実施
授業形態 ※	対面
評価方法　※	1)成績は、授業への貢献と毎回の受講票（40%）、中間レポート（30%）、期末試験（30%）に拠る。 2)毎回、受講票の提出がある。各回ごとに10段階で評価する。 3)中間レポートの提出がある。指定の字数に満たないレポートを提出した者は単位を取得できない。
評価基準	
テキスト	
注意事項	**この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。**
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名　※	経済･国際･教育学部	
科目名　※	文学	単位数　※	2	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月曜･1限	
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	ー	
学修分野				
授業目的　※	1887年(明治20)から現代の日本の近現代文学に親しむ。 文学作品の書かれた時代背景(社会情勢、文化)も同時に学び、理解を深める。			
到達目標	一般教養を身につけるとともに、多様な観点から社会や人間心理をとらえ、考える力をつける(DP･CP2)。			
授業内容 授業形態 ※	講義形式。毎回、講義を通して考えたことを、moodleフォーラムに投稿。 このフォーラムの投稿と教師のフィードバックは全員見ることができるため、自分では気づかなかった考え方にも触れられ、コメント力も向上して行く。			
評価方法　※	試験は最終回の前半にまとめの講義をした後に、試験(記号選択問題、筆記問題　制限時間40分)をする。			
評価基準	全14回分のフォーラム投稿(1回5点満点×14回)＝70 点 試験＝30点(空欄補充･記号問題22点、200字記述問題8点) 合計100点			
テキスト	教科書は使用しない。			
注意事項				
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名　※	経済･国際･教育学部
科目名　※	社会学	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月曜･1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	ー
学修分野			
授業目的　※	本授業では、社会学的な理論や方法論、社会学の歴史を学び「知識と教養」(DP)を身に付けることを目標とします。また、わが国の少子高齢化、情報化といった社会変動の過程や背景を取り上げ、現代社会に起こっている「社会問題への関心と創造力」、「多様性を理解と協働性の実践」を身に付けることがねらいです(DP･CP)。		
到達目標	家族、地域社会、社会システムの基本的な視点を学び、現代社会における社会問題の現状と課題について説明することができることです。		
授業内容 授業形態 ※	授業の進め方は、対面授業を行います。テキストを活用し、新聞や統計･世論調査、DVD教材などの資料で補足しながら、私達を取り巻く身近な人と人との関係、集団との関係、現代社会に起こっている様々な問題とその対策について考えます。また、毎回の授業でふりかえりをしてもらい、授業内容についての質問や感想などについては、次回の授業でコメントしてフィードバックを行います。さらに、最終レポート課題点やコメントについては、KCNを通じて個別にフィードバックを行います。 講義は対面形式。		
評価方法　※	毎回の課題(理解度･思考力･ふりかえり;70%)、最終レポート課題(総合的説明力;30%)を総合的に勘案して評価します。		
評価基準			
テキスト	杉座秀親･石川雅典･菊池真弓編『社会学と社会システム[初版]』弘文堂, 2021年		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名　※	経済･国際･教育学部
科目名　※	数学Ⅰ	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月曜･1限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	ー
学修分野			
授業目的　※	1変数の微分と最適化, 数列の和, それらの経済学での応用を理解する。		
到達目標	1変数関数の微分, 最適化, 数列の和が計算できるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	対数関数, 指数関数、微分、微分の公式、1変数関数の最適化、企業の利潤最大化問題（1要素1生産物）、連立一次方程式、二次形式、産業連関表、数列の和と級数、財務諸表、株価と企業価値 授業は前半に講義し, 後半に演習を行う. 演習はmoodleで実施する.		
評価方法　※	演習50%, 中間試験25%, 期末試験25%		
評価基準			
テキスト	経済数学入門 オンデマンド（ペーパーバック）– 2023/1/13 吉田 直広（著）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名　※	外国語学部
科目名　※	日本倫理思想史ＩＡ	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的　※	〈授業の概要〉 日本倫理思想史の基礎的な内容の修得をめざす。日本の思想はしばしば他の地域の文化・思想の雑居態とみなされるが、その具体像はいったいどのようなものなのだろうか。本授業では、古代から中世までの日本倫理思想史の展開を大きくおさえる。 〈授業の目的と到達目標〉 我が国の倫理思想をめぐる豊かな教養を身につける。 〈授業の形態〉 ・原則対面講義（対話回のみzoom）、google classroom使用。		
到達目標			
授業内容	第1回オイダンスと反省 第2回本倫理思想史という学 第3回話：日本倫理思想史はどう学ぶ《べき》か 第4回ミとの出遭い 第5回ミをめぐる語り① 第6回ミをめぐる語り② 第7回問への応答・課題 第8回話 第9回とめ（古代） 第10回ミと仏と 第11回よりもあなたを 第12回じることの深さと難しさ 第13回問への応答・課題 第14回話 第15回とめ（中世）		
授業形態　※	原則対面講義（対話回のみzoom）		
評価方法　※	・全３回の小課題〔600字目安〕の成果（20点×3）、質問・「問い」の提出（10点×2）、対話参加（20点） ※ただし、「対話」回に１回も出席・参加していない場合には単位を発行しない。 ・学期末に実施予定のこの授業の「学び」に関する独自アンケートへの回答を単位認定の前提条件とする。		
評価基準			

テキスト	
注意事項	**この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。**
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名　※	外国語学部	
科目名　※	児童英語教育論A	単位数　※	4	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月３・木３	
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定	
学修分野				
授業目的　※	この講義は将来的に早期英語学習者を対象とする英語教師になるために、必要な理論や教育現場での実践活動を概観し、模擬授業などの実技演習にも取り組む。特に我が国における早期英語教育の全体像と新学習指導要領における小学校外国語活動と外国語科を理解し、自ら授業案を立案・指導できるようになるための入門基礎科目として関連内容を幅広く扱う。			
到達目標				
授業内容	第1回講座内容の紹介、成績評価方法、レポート課題発表 第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ① 第2回第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ② 新学習指導要領を紐解く、グループワーク① 第3回第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ③ 新学習指導要領を紐解く、クイズ、グループワーク② 第4回第2章：言語習得と関連領域 ①　子どもの言語獲得の過程 第二言語習得論　関連領域からの理論的枠組み① 学習理論、生成文法、 相互作用論、実践体験その１：子どもの歌、TPR 第5回第2章：言語習得と関連領域 ② 第二言語習得論　関連領域からの理論的枠組み②　インプットとアウトプット 理論、インタラクション仮説、クイズ 実践体験その２：絵本の読み聞かせ① 第6回第2章：言語習得と関連領域 ③ 第二言語習得論　関連領域からの理論的枠組み③ CPH、気付きの理論、 ピアジェ、ヴィゴツキ-、クイズ 実践体験その２：絵本の読み聞かせ② 第7回第3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携①、 クイズ、実践体験その3：ティームティーチング① 第8回第3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携②、 クイズ 第9回実践体験その3：ティームティーチング② 第10回第3章：基本的な外国語教授法　絵本やお話を使った外国語指導① 第11回第3章：基本的な外国語教授法　絵本やお話を使った外国語指導② 第12回第4章：国際理解教育と英語教育 第13章：指導の基本と留意ポイント 第13回第9章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習① 第14回第9章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習②			

	第15回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識①、グループワーク 第16回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識②、グループワーク 第17回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習① 第18回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習② 第19回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク① 第20回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク② 第21回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク③ 第22回第15章：文字指導のあり方① 模擬授業準備、実践演習、グループワーク④ 第23回第15章：文字指導のあり方② 模擬授業準備、実践演習、グループワーク⑤ 第24回教材作成、実践演習、グループワーク⑥ 第25回模擬授業に向けての技術的指導、実践演習、グループワーク⑦ 第26回模擬授業①ティームティーチング、考察、フィードバック 第27回模擬授業②ティームティーチング、考察、フィードバック 第28回模擬授業③ティームティーチング、考察、フィードバック 第29回模擬授業実践の振り返りと理論の裏付け ② 課題提出
授業形態 ※	対面
評価方法　※	レポート ・クイズ・振り返り　　30% 実技演習　　40% 授業への貢献　　30% レポート・クイズ、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	**この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。**
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名　※	外国語学部	
科目名　※	中国語学概論Ⅰ	単位数　※	2	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月３	
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定	
学修分野				
授業目的　※	この授業では、中国語とはどのような言語であるかを主に文法面から概説します。現代中国語の文法を体系的に理解できるようになることを目指しますが、前半は漢字の成り立ち、文字改革などについても触れます。また、中国語のことば遊び（物謎、字謎、しゃれ言葉、早口言葉）やことわざ、祝祭日のことば、慶弔のことばなどについても適宜紹介します。			
到達目標				
授業内容	第1回☒イダンス、中国語とはどのような言語であるのか 第2回☒字とは何か―漢字の起源・六書・字形の変化と「字書」の話 第3回☒国の漢字と日本の漢字、中国の文字改革 第4回☒ンイン・ローマ字の制定、正書法 第5回☒語法」と「文法」、「字」と「語」、外来語 第6回☒ループワーク：外来語について調べる（次週の発表準備） 第7回☒間発表：外来語について調べて発表（中間試験に相当。形式等詳細は授業内で説明します） 第8回☒語と連語、文の成立、標点符号 第9回☒の種類（構造上の分類、用法上の分類） 第10回☒の成分（主語、述語、述語の構成から見た基本構文） 第11回☒の成分（賓語） 第12回☒の成分（補語） 第13回☒の成分（修飾語） 第14回☒とばにみる中国人の世界観、思考法 第15回☒期のまとめ（期末試験ならびに解説）			
授業形態　※	対面			
評価方法　※	授業参加度・課題への取り組みなどの平常点（60%）、中間発表（グループワーク・10%）、期末試験（30%）			
評価基準				
テキスト				
注意事項	**この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。**			
授業シラバス				

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名　※	外国語学部	
科目名　※	国際関係論ＩＢ	単位数　※	2	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月３	
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定	
学修分野				
授業目的　※	ウクライナ戦争はじめとする世界の戦争・紛争を取り上げ、どうして和平が崩れたのかを考えます。難民問題や核抑止、国連システムの仕組みなどをKUIS生が制作した『KUIS World News』などを教材に考えます。各国の主張や争点を易しい英語（plain English）で説明できることも目指して国際的なコミュニケーション力を養います。			
到達目標				
授業内容	第1回講義の進め方　教科書の説明　評価の仕方　KUIS World News 『ウクライナ危機』と課題の設定　【視聴】ウクライナ戦争の動画　Q1 第2回課題１：国連（United Nations)はどのようにして成立したのでしょう？ 第2章１ 第3回課題２　国連安保理はどのような役目を果たすのでしょう？　第2章２ 第4回課題３　冷戦時代の国連はどんな働きをしたのでしょう？　第2章３ 第5回課題４　湾岸戦争で国連はどう変わったでしょう？　第3章２ 第6回課題５　中国の台頭で国連はどう変わったでしょう？　第3章１ 第7回課題６　経済の相互依存や地域統合はどう進んだでしょう？　第3章１ 第8回課題７（中間課題）　「対テロ戦争は国際協調にどう影響したでしょう」 第3章２、３ 第9回課題８　ウクライナ戦争①　安保理の緊急会合で何が決まったでしょう？ 第1章１ 第10回課題９　ウクライナ戦争②　経済制裁はどこまで有効でしょうか？　第1章２ 第11回課題１０　ウクライナ戦争③　戦争犯罪とは何で、どう対応すべきでしょう？ 第1章３ 第12回課題１１　ウクライナ戦争④　核兵器の威嚇や使用をどう防ぐのでしょう？ 第4章１，２ 第13回課題１２　ウクライナ戦争⑤　核兵器禁止条約は役立つでしょうか？ 第4章３ 第14回課題１３　ウクライナ戦争⑥　停戦の条件と和平の見通しは？ 第1章４　第5章 第15回結びとまとめ　戦争の終わり方と国連改革の展望　平和構築の課題　第5章			
授業形態　※	対面			

評価方法　※	7回目と13回目に課題を出すので、それに回答してください。 授業参加など平常点20％ 中間課題30％ 最終課題50％ 授業に沿ったテーマでプレゼンテーションすることも認めます(プレゼンについては初回の授業で説明します)。
評価基準	
テキスト	
注意事項	**この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。** **語学水準：C基準（TOEIC® L&Rの場合600点）以上**
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名　※	現代子ども学科
科目名　※	児童文化Ⅰ	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月・3
キャンパス※	佐倉	教室※	205
学修分野	保育		
授業目的　※	子どもが誕生して、見るもの聞くものその環境の全てが学習の対象となる乳幼児の成長の一つ一つの素材を紐解き、伝承文化（遊び・歌・絵本、他）、季節の子どもの行事・歌等を通して、子どもの心身の成長に合わせた保育の表現技術を広く学ぶ。		
到達目標	【子どもの歌の歌唱・リズムダンスの振り付け、ミュージカル・コンサート等の実務経験を有する教員が、その経験を活かして、子どもの発達に応じた表現遊びを通して、遊び方の導入と言葉かけ、遊びの展開の実技の指導法、音楽表現とその必要性を指導する。】		
授業内容 授業形態 ※	総合的な子ども理解（保育に関する知識）や（保育実技）、（保育技術）と使命感（自己管理）や（生涯学習）を備えた教育者・保育者を達成するため、子どもの日常を取り巻く様々な文化的活動の歴史を理解し、それぞれの分野を保育現場で生かすことができるよう視野を広げる。また、グループで研究に取り組むことによってより良い（コミュニケーションスキル）や（課題解決力）、（チームワーク）の大切さを身に付ける。 ディスカッション、プレゼンテーション形式を中心とした演習を伴う講義授業である。指示された課題をテキスト・図書館の資料・インターネットやyouthbe等を活用して研究発表を行う。授業では項目毎にまとめのプリントを配付するが、口頭での説明や気付いたことは各自で記入し、A4ファイルにまとめておく。また、項目によっては授業内で課題の小テストを行う。毎授業では振り返りシートに学びや課題や改善点を記入する。		
評価方法　※	出席・授業態度・提出物を含め総合的に評価する。 季節・年中行事の歌（ミニ模擬授業発表40%）、童謡・唱歌研究(発表40%：レポート20%)		
評価基準			
テキスト	岡崎裕美・渡辺厚美　編著：コンパクト版保育内容シリーズ「音楽表現」（出版：一藝社）		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名　※	現代子ども学科	
科目名　※	特別支援教育	単位数　※	2	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月・3	
キャンパス※	佐倉	教室※	206	
学修分野				
授業目的　※	保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）として、特に以下点についての習得を目指す 1.障害児保育の理念や歴史的な変遷について学び、障害のある子どもの保育について理解する 2.様々な障害特性について理解し、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について学ぶ 3.障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について学ぶ 4.障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する 5.障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。			
到達目標	特に、本学のDP【保育者としての使命感を身につける：子どもを育むことの価値を理解し、人間形成の基礎を培うことの責任を実感したうえで、子ども一人一人を敬愛し、常に向上しようとする意識を身につけている】を達成し、保育者としてインクルーシブの視点をもって保育ができるようになることを目的とする。			
授業内容 授業形態 ※				
	講義形式を中心とするが、ワークシート、シャトルカードを使用し、自身の学びの確認ができるようにする。また、DVD を活用した授業や疑似体験も盛り込み、可能な限り「障害をもつこと」を学生がイメージできるような授業展開を実施する。授業内の学びの確認テストを実施する。			
評価方法　※	ワークシート（20%）、シャトルカード（30%）、定期テスト（50%）その他、授業への取り組みを含め総合的に判断する。			
評価基準				
テキスト				
注意事項				
授業シラバス				

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名　※	経済学部・経済学科
科目名　※	日本経済史Ⅰ	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月-3
キャンパス※		教室※	307
学修分野			
授業目的　※	「みかん」を補助線としながら，近世から近現代（幕末開港以降）を中心に，日本経済史の概説を行います。年号や事件，政治家の名前を記憶するだけの暗記科目ではなく，日本人にとって身近な「みかん」を事例としながら，現在に至るまでのモノの生産―流通―消費の量的・空間的な変化，また人びとの移動や生活の変化を論じます。近世から現在にまで広く人びとに食べられている「みかん」を軸として経済社会を学ぶことで，現代日本あるいは現代を生きる人びとを相対化（通時比較，共時比較）する知識が得られます。 なお，この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち，特に【（思考力，判断力，表現力等）】に資する科目です。		
到達目標	・日本経済史における基礎的な用語や概念を解説できる。 ・日本国内における経済社会の動向のみならず，資本主義の世界体制形成・深化における日本の立ち位置を図解できる。		
授業内容 授業形態 ※	(１)イントロダクション：日本経済史を学ぶ意義 (２)幕末開港までの日本：江戸時代の経済社会 (３)幕末開港・明治維新①貨幣制度と貿易の開始 (４)幕末開港・明治維新②秩禄処分と地租改正 (５)幕末開港・明治維新③殖産興業と富国強兵 (６)戦争と日本経済①日清・日露戦争と海外展開 (７)戦争と日本経済②第一次世界大戦と産業構造の転換 (８)戦間期の日本経済①都市と農村 (９)戦間期の日本経済②大衆消費社会の到来 (10)戦間期の日本経済③恐慌 ―世界，農村，工場への打撃 (11)戦時期の日本経済①統制経済と日満支ブロック (12)戦時期の日本経済②太平洋戦争の開戦と国民生活，レポートの書き方の解説 (13)戦後の日本経済①復興・復帰と高度経済成長 (14)戦後の日本経済②成長の終焉と社会問題 (15)現代―わたしたちが生きる世界―		

評価方法　※	・評価項目割合：課題70％・期末レポート30％ ・全15回授業の3分の2に相当する10回分の出席が必須です。最低出席回数が満たされたうえで，課題の合計点と，期末レポートの点数により成績評価を行います。 ・期末レポートについては，第12回目の講義でテーマや書き方に関する説明を行います。
評価基準	
テキスト	指定なし
注意事項	・受講者と教員，また受講者同士のコミュニケーションを重視した講義です。講義中にディスカッションやグループワークがあり，また教員からの問いかけに自分なりの回答を発表する場面が多くあります。主体的に講義に参加する姿勢と，他の受講者と協働し，他の受講者へ配慮する姿勢が求められます。 ・毎講義で成績に直結する課題を課します。コツコツと授業・課題に取り組んでください。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名　※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名　※	スポーツ倫理	単位数　※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月曜日3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	1-219
学修分野			
授業目的　※	本授業では、ジュニア期のスポーツに焦点を当て、現代社会が抱える子どものからだとこころの問題を把握し、子どもの発育発達に欠かせないあそび・運動・スポーツの現代的な意義を、スポーツ倫理の側面から概説する。		
到達目標	本授業を通じて、ジュニア期のスポーツ指導者としての基礎知識や指導者としての倫理観を学び、子どもとのコミュニケーションスキルについて説明できるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	本授業では、ジュニア期のスポーツの考え方、子どもの発達とコミュニケーションスキルといった具体的なテーマについて、スポーツ倫理の側面から学ぶ。 また、スポーツ指導者にとって「やる気」を起こさせる指導がいかに重要であるか、スポーツの楽しさをいかに伝えていくかの基本的なスキルについて学ぶ。 授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。		
評価方法　※	成績評価方法は、毎回の授業内小レポート・授業外学習（40%）及び定期試験（60%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名　※	外国語学部
科目名　※	韓国史概論Ⅰ	単位数　※	2
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月４
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的　※	この講義では、朝鮮半島を中心とした地域の歴史を学び、その展開を東アジア史の中に位置づけながら理解することを目的とする。それによって日本列島の歴史をより相対的に理解するための視角を得ることができるだろう。前期のⅠでは古代～近世の歴史を学ぶ。		
到達目標			
授業内容	第1回[redacted]国朝鮮史を学ぶために 第2回[redacted]史における「朝鮮」の登場と高句麗 第3回[redacted]句麗・百済の成長と葛藤 第4回[redacted]羅の成長と半島統一 第5回[redacted]一新羅と渤海 第6回[redacted]麗王朝の建国 第7回[redacted]麗前期における国家体制の整備 第8回[redacted]間試験 第9回[redacted]麗社会の展開 第10回[redacted]ンゴルの侵略と高麗後期の文化 第11回[redacted]鮮王朝の成立 第12回[redacted]鮮前期の支配体制 第13回[redacted]鮮前期の政治と社会 第14回[redacted]鮮前期の政争と国際関係 第15回[redacted]末試験と総括		
授業形態　※	対面		
評価方法　※	中間・期末試験による。なお授業への積極的なとりくみも考慮する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	**この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。**		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名　※	ビジネスライフ学科	
科目名　※	情報と社会	単位数　※	2	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月・4	
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402	
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースアップステージに位置づけられます。			
授業目的　※	高度情報化社会といわれる現代において、情報という言葉はとても身近である一方で、その理解については人によって様々に異なっている面もあります。本講では、日常的に当たり前のように接している情報について、歴史的な背景も含め、社会との関係を軸に改めて考えてみます。情報の持っている様々な特性が人々の生活にどのような影響を与えているか、何を理解し、何に注意すべきかなど、公共図書館での実務経験をもとに、情報と社会の関係について多面的な把握を試みます。DIKW（データ・情報・知識・叡智）モデルやリテラシーなどのキーワードを軸に、高等教育を受ける者として知っておくべき情報に関するマナー・身のこなしなどについても触れます。これらを通じて、情報が溢れる現代社会において、より豊かな生き方へのヒントを見つけ、成熟した社会人としての自覚を得る一助となればと考えます。			
到達目標	①　情報が人の行動に及ぼす影響について具体例を示すことができる ②　自分なりの情報との付き合い方を見定めることができる ③　必要な情報について、的確に探し、評価し、活用することができる			
授業内容	第１回　ガイダンス：データ・情報・知識・叡智及び図書館 第２回　情報と媒体（メディア）：媒体の歴史、種類、特徴等 第３回　情報と市民社会：社会を構成する個人にとっての判断材料としての情報 第４回　情報と報道：判断材料としての情報を提供するジャーナリズムの役割 第５回　情報と統制：言論統制・検閲・焚書・流言飛語・フェイクニュース等 第６回　情報の生産と知識の蓄積：学問・科学の概略史と研究不正を軸に 第７回　情報とICT：コンピュータの発達とコミュニケーションの変化 第８回　情報とリテラシー：言語・メディア・ITのリテラシー			

授業形態 ※	第９回　情報と図書館：地域における情報拠点としての図書館の役割 第10回　情報と生活：消費者情報・健康医療情報・法情報・ビジネス情報等 第11回　情報とその社会における活用：統計・社会調査・アンケート・ビッグデータ等 第12回　情報と災害：緊急時の情報ニーズを中心に 第13回　情報と法：著作権法や個人情報に関する法令等の概説 第14回　情報リテラシー：必要な情報を、的確に探し、評価し、活用する能力 第15回　まとめ：社会の中の個人としての情報とのつき合い方 主にパワーポイントのスライドを用いた講義形式で行いますが、適宜、受講者の発言・意見発表を交えたり、視聴覚教材を利用したりすることもあります。毎回レジュメを配布します。参考資料を追加する場合もあります。
評価方法　※	修了レポート（60%）、授業への積極的参加（出席・発言・意見記入：40%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。
評価基準	
テキスト	特になし。講義レジュメを毎回配布します。関連する新聞・雑誌記事や論文・レポート類を配布する回もあります。
注意事項	特になし
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=1735&nendo=2023

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名　※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名　※	スポーツ心理学	単位数　※	2単位
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月曜日４限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-206
学修分野			
授業目的　※	スポーツ心理学とはスポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり，応用心理学の一領域として捉えられています。本講義ではスポーツ心理学の基礎的な理論を中心に説明し，トピックに応じて実践的な利用法についても紹介していきます。		
到達目標	競技スポーツ，学校体育，健康スポーツなどと関連する心理的な諸理論を理解し，説明できるようになる。さらに，本講義で学んだことと，今まで自身が経験してきたこととの関連性についても考察できるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	本講義ではスポーツに関わる領域（競技，学校体育，健康など）の内容を取り上げながら，学生の皆さんが将来目指す立場（競技者，指導者，教員，スポーツ医・科学スタッフなど）のトピックを学んでいきます。また，毎授業時に受講生が作成するレポート課題の記載内容や質問を活用しながら他者の経験を受容し，自身の心理面との比較も行います。その際，グループディスカッションを適宜取り入れることもあります。		
評価方法　※	定期試験の成績60%，平常点40%（授業内での毎回のレポート課題，授業時の取り組み）とし，総合して評価する。		
評価基準			
テキスト	「なし」 ※適宜プリントを配布する予定です。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名　※	発達教育学部　発達支援教育学科	
科目名　※	自信を高める心理学	単位数　※	２単位	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月曜日・５限	
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	多目的演習室１	
学修分野	教養教育科目（基礎科目）			
授業目的　※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道徳心と倫理観をもって行動できる。			
到達目標	１．自己イメージがどのように形成されるかについて基礎的な知識を習得し、自己肯定感を高める方法を実際に活用する体験をする。 ２．ストレスへの対処や自分自身の感情のコントロールに関する心理学的な知識を獲得し、自分の精神的健康の維持や向上に役立てる。 ３．他者との望ましい人間関係を築き、維持するためのコミュニケーションスキルについて知識を獲得し、授業の中で行う訓練を通じてそうしたスキルを高める。			
授業内容 授業形態 ※	第1回 授業ガイダンス・精神的成長とストレス・心理学的に見た青年期(目標2) 第2回 ストレスへの対処とメンタルヘルス(目標2) 第3回 自己イメージはどのようにつくられるか(目標1) 第4回 ストレス、不安や恐怖を和らげる方法 (目標2) 第5回 自己肯定感を高めるには (目標1,2) 第6回 マインドフルネスを高める (目標2) 第7回 自分自身への思いやりを高める(目標1,2) 第8回 自己カウンセリング(目標1,2) 第9回 価値観の形成とアイデンティティの確立 (目標1,2) 第10回 アサーションの基礎 (目標3) 第11回 アサーション実技訓練(目標3) 第12回 合意形成のグループワーク (目標3) 第13回 認知行動療法を日常生活に活かす (目標1,2) 第14回 性格テストを活用した自己理解 (目標1,2) 第15回 まとめ　自信を高めるには(目標1,2)			
評価方法　※	授業への参加態度，提出物の提出の有無と内容から総合的に評価する。 評価方法 受講態度・体験的学習への取り組み　40%程度 毎回の授業の最後に提出する小レポートやその他の提出物の内容　60%程度			

評価基準	1．自己イメージがどのように形成されるか、自己肯定感を高める方法について基礎的な知識を習得し、その概要を説明できること。 2．ストレスへの対処や自分自身の感情のコントロールに関する心理学的な知識を獲得し、それらを自分の精神的健康の維持や向上に役立てる方法を説明できること。 3．他者との望ましい人間関係を築き、維持するためのコミュニケーションスキルについて基礎的な知識を獲得し、そうしたスキルを高める練習ができるようになっていること。
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
注意事項	授業内で行う様々な個人ワークやグループワークに積極的に取り組むこと。個人ワークには、過去の出来事を振り返り、それについて文章を書く課題が含まれる。 授業内容や授業の順序は、受講生のニーズやその他の条件に応じて、変更する可能性がある。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名　※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名　※	宗教と科学	単位数　※	2
開講学期※	2023年度 前学期	曜日・時限　※	月曜5限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	
学修分野			
授業目的　※	宗教と科学それぞれの基礎的知識を養い、両者の関連性を把握し、あわせて人間生活における宗教の役割を考察する力を養う。		
到達目標	1. 社会現象としての宗教を対象化して人間理解として観る姿勢を培う。 2. 社会科学、自然科学の在り方を具体的テーマを通じて理解する。 3. 「宗教と科学」との関連を考察することの意味を把握することができる。		
授業内容 授業形態 ※	宗教と自然科学および社会科学との関連について知的な興味をもつ学生諸君の関心に応えて、人生と科学とのかかわりをさまざまな側面から学生諸君の理解に合わせて講述する。そのさい宗教と科学を架橋する考え方を平面的に解説するだけでなく、宗教の意味や役割を考察することにより、「宗教と科学」の問題を学生諸君が自分自身の課題として考える糸口になるようにしたい。 授業は講義形式でおこなわれ担当者が毎回の授業運営にあたるが、約半数の授業では授業のなかに2人ずつのペアワーク、3人以上のグループワークといったアクティブラーニングを取り入れる。		
評価方法　※	宗教現象を、人間理解の一助とし、社会科学、自然科学的文脈で対象化して理解し、「宗教と科学」との関連ついて理解するための授業内容に関する、事前・事後学習、小レポート、授業内試験により総合的に評価する。		
評価基準	［評価基準の割合］ 事前事後学習レポート30点、小レポート30点、授業内試験40点の計100点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	15回を通じて、主体的に学修に取り組むこと。 事前・事後学習を欠かさないこと。 提出物は必ず提出すること。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム　単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名　※	現代子ども学科	
科目名　※	保育者論	単位数　※	2	
開講学期※	前期	曜日・時限　※	月・5	
キャンパス※	佐倉	教室※	206	
学修分野				
授業目的　※	専門職としての保育者の役割や倫理、制度的にもとづく職務内容について理解し、子どもの専門家として身につけるべき知識・技能を修得すると共に、人間性や感性を育むことをねらいとする。またチーム保育、組織としての連携・協働について学び、保育者の専門性に対する理解を深める。			
到達目標	・ 保育者の専門性や役割、制度的な位置づけについて倫理観を踏まえて理解する。（CP1） ・ 保育者の求められる資質や能力について、自分の考えを伝えることができる。（CP1） ・ 保育者の協働性について、多角的な視点から考えることができる。（CP1）			
授業内容 授業形態 ※	実践に即した考えを深める授業形態となるよう、前半は保育者の専門性について理論や実践事例等を講義形式で進めていく。後半は基本的な態度や技術を実践的に学べるよう、環境と遊び、家庭や地域との連携、子ども理解、同僚性などの視点から事例をもとに、グループワークやロールプレイを用いて展開していく。 各授業では振り返りシートへの記述を取り入れ、次回授業時に学びの共有を行う。 最終課題は評価対象のため、希望者にのみ試験終了後返却を行う。授業で取り組むレポート類については、担当教員による添削後返却となる。			
評価方法　※				
評価基準				
テキスト				
注意事項				
授業シラバス				

※は必須記入事項